

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372800215
法人名	社会福祉法人 長寿会
事業所名	グループホーム みどり
訪問調査日	平成20年5月16日
評価確定日	平成20年8月21日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2372800215		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホーム みどり		
所在地 (電話番号)	愛知県碧南市油漕町3丁目50番地 (電話) 0566-48-7111		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成20年5月16日	評価確定日	平成20年8月21日

【情報提供票より】(20年4月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	35,000円(食材費含)	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 90 歳	最低	82 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	にしばたクリニック・碧南市民病院・碧南歯科医師会
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から9年目を迎え、認知症介護支援のプロとして、安定したサービス提供を実現しているホームである。法人に新たに老人福祉施設が加わり、新体制作りが急がれる時期であり、ホームとしても、法人の新体制の下で、早急に運営体制確立を図らなければならないが、そうした支援側の都合を、現利用者に悟られず、変わらない生活支援を継続提供しているホーム運営は見事であると言える。今期、法人内異動で前管理者がホームを離れ、現管理者を法人施設長の兼務としたことのメリットが、良い形でホームの生活に反映されている。併設施設の行事・設備の共有、職員の連携等、法人協働で質の高いサービス提供を目指し、実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回調査では、主に「地域」との関わり、「地域密着」を意識した支援についての提案をさせていただいた。今回評価ではホーム理念に「地域の中でその人らしく」という文言を加え、ますます充実した利用者本位の支援目標としている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎月の会議で、ホーム全体の課題・問題点を抽出し、職員間で協議・解決する体制がある。年一回の外部評価では、自己評価を、ホームのサービスの質を振り返る機会とし、職員間で話し合いを行っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>概ね2ヶ月に一度の会議を開催し、ホームの活動・計画を報告している。意見交換・要望聴き取り等、家族・地域からの直接の声を聴き取ることで、課題・問題を考え、ホームの運営方針・日常支援に反映させている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>新しく家族会を組織し、家族のホーム運営参可の体制を確立した。また、日常的に家族意見・要望の聴き取りに努め、運営推進会議等で第三者と意見交換を行う機会を設ける等、積極的に家族意見聴取を行い、ホーム運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>大型施設併設のホームであり、ホーム単独の「地域とのつきあい」は、これまでもホームにとっての大きな課題であった。今年度も、併設施設の地域を巻き込んだ行事(夏祭りなど)等に参加し、地域住民と関わりを持つ取り組みを継続的に行っている。今後も継続的な課題解決の取り組みが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新しく「地域の中でその人らしく」の文言を加え、利用者本位の理念に基づき、日常支援の方針を策定している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、ホーム方針をよく理解し、日常支援に活かし、利用者本位の支援実現のための取り組みを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大型施設併設のホームであり、ホーム単独の「地域とのつきあい」は、これまでもホームにとっての大きな課題であった。今年度も、併設施設の地域を巻き込んだ行事(夏祭りなど)等に参加し、地域住民と関わりを持つ取り組みを継続的に行っている。		ホームが「地域の中の一軒」、利用者一人ひとりが「地域住民のひとり」としての位置付けが望ましく、現在の取り組みでの成果に期待するところである。また、ホーム単独での地域への働きかけ・交流は、継続した課題として検討をお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の会議で、ホーム全体の課題・問題点を抽出し、職員間で協議・解決する体制がある。年一回の外部評価では、自己評価を、ホームのサービスの質を振り返る機会とし、職員間で話し合いを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度の会議を開催し、ホームの活動・計画を報告している。意見交換・要望聴き取り等、家族・地域からの直接の声を聴き取ることで、課題・問題を考え、ホームの運営方針・日常支援に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者の運営推進会議への参加はあるが、それ以外の関係確立には至っていない。		3項目同様、ホームは行政とのより良い関係作りの必要性を感じているが、併設施設を含む法人全体での連携・取り組みになっている。しかし、高齢者介護事業の、それぞれ事業・業種の役割・特性を考えると、ホーム単独での行政との協働はホームにとっても望ましい事であり、積極的な取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に利用者の状態・状況変化時に都度連絡を行っている。利用者の体調急変時等、緊急の場合は、特に連絡を密に取り、家族との連携を図っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新しく家族会を組織し、家族のホーム運営参可の体制を確立した。また、日常的に家族意見・要望の聴き取りに努め、運営推進会議等で第三者と意見交換を行う機会を設ける等、積極的に家族意見聴取を行い、ホーム運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの運営体制は確立しており、職員の離職・異動はほとんど無い。職員交代が発生すると、利用者の日常支援に大きな弊害が生じることをよく理解し、方針として「馴染みの関係」での支援を実現している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人勉強会・研修をはじめとし、外部研修参可も含めた、職員のレベルに合わせた研修参加を奨励している。職員ヒアリングでも、個人のレベル・スキル向上への意識の高さ、積極的な研修参加への意思を確認できた。		職員の自身の向上意識の高さを評価し、本人の受講希望の内容を把握することも研修計画の一環であることから、本人希望の研修を適切に提供できる取り組みとして、職員一人ひとりの意識調査実施を提案したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム協議会西三川地区相談委員会参加、研修会・勉強会参加等、情報交換・最新の情報収集に努め、ホームのサービスの質の向上に活かす取り組みにつなげている。		ネットワークを活かした、事業所間交換実習・研修等、具体的な取り組みの発展に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験利用を可能としており、一日を通した利用を体験していただき、利用希望者とホーム側双方の、向き・不向きを判定している。入ってくる利用希望者側、受け入れる現利用者を含めたホーム側の相性までも考慮し、双方の生活の継続が叶うように、全ての関係者と相談・話し合いを行い、納得の上での利用開始となっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の尊厳を守り、年長者への尊敬の念を忘れず、共同生活者としての立場で、相互の信頼関係での日常生活支援に努め、実践している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者が安心・楽しく過ごせるように、日々のケアを行い、その中で、利用者の思い・希望の聞き取りに努め、本人本位のケアの実践に取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本位の介護計画を作成するために、会議等で話し合い、個々の課題・目標の抽出に努め、介護計画立案・作成を実施している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員間で利用者の状況・要望について話し合い、変化がある場合には、随時の見直しを行い、介護計画に反映している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内施設併設のメリットを最大限に活かすように努め、利用者の生活の広がりを実現している。また、特養・デイサービスの行事参加を始め、ホームの非常時(医療面・災害面)の連携等、利用者・家族の安心に配慮した支援がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム連携医・利用者希望医の適切な受診を受けられるように支援している。利用者の状態・状況・性格に配慮していただける連携医の協力もあり、ホームの医療支援は、利用者・家族の安心につながっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの運営方針が「自立支援」であり、ハード面(階段・居室・浴室等)でも自立を対象としているため、利用開始時点で、利用者・家族と自立困難になった場合の話し合いを行っている。ホーム利用が難しくなった時点で、法人特養他、利用者にとって最善の支援を考えた移動・移行支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の記録に関しては、利用者・家族・外部者が、日常生活の中で目の届かない場所に保管している。利用者のプライバシーに関しては、個人対応に努め、個人の尊厳に配慮した支援を実践している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問調査日当日、昼食をご一緒させていただいたが、職員は利用者の食べるペースに合わせ、介助・声かけを行っていた。食後も、ソファで歓談する利用者もいれば、洗濯物をたたむ利用者もおり、それぞれの時間を過ごす光景から、ホームの利用者一人ひとりに対する配慮が感じられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の偏食を理解しており、苦手な食品を使う場合は個別対応で他の食品で代用している。また、利用者本人に、苦手な食品を使っていない事を報告し、食事を心から楽しめるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能となっている。浴室には、多人数入浴を想定した大型の檜風呂・複数のシャワーが設置され、視察時の感想としては、ペンション・民宿の共同風呂のイメージである。現在は個室が主になっているが、広々とした浴室でのゆったりした入浴は、利用者の楽しみにつながる事が推察できた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎週の習字・お花の「教室」は現在も続いており、廊下には利用者の書いた習字を掲示し、利用者同士の張り合いとなる効果につなげている。また、絵を描かれる利用者もあり、その方の趣味・生きがいといってもいいほど打ち込んでおられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回、手づくり弁当を持って、ホームで水族館や花畑等、利用者・職員共有の楽しみとなる外出を支援している。		ホームの立地を考えると、日常的な買い物・外食等の外出支援が困難であることは理解できる。しかし、利用者の希望・要望実現の支援を考え、今後に向けての検討に期待するところである。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは、車通りの多い道路に面しており、利用者の安全面を考慮して、家族同意の上で玄関を施錠している。しかし、利用者の外出希望に対しては、職員が見守りを徹底し、適切な対応を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対する職員教育・研修は同法人特養と合同で行い、特養との協力体制も整っている。しかし、ホーム独自で、地域との協力体制の確立は難しい状況であることが否めない。		災害対策は利用者の人命にかかわることから、「特養の他にグループホームに入居者がいる」「確実に安否確認をしてもらおう」等、運営推進会議での周知・依頼も有効であると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者の好き嫌い、一人ひとりの状態に合わせた食形態を理解しており、利用者が楽しんで食事を摂れるように支援している。訪問当日の昼食もほとんどの利用者が完食しており、利用者に対する配慮の深さが感じられた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの窓は大きく、明るさも十分であった。空調も適切に管理され、生活空間として何ら問題は感じられない。リビングの天井には季節の花や虫の飾り付けがなされ、ホームの中においても、季節が感じられるように配慮が感じられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、多くの馴染みの物品が持ち込まれ、居室は利用者によってそれぞれ雰囲気が異なっている。個性のある居室は、利用者にとっての居心地の良い場所としての位置付けに他ならないことが理解できる事から、ホームの積極的な支援・家族の協力が感じられた。		